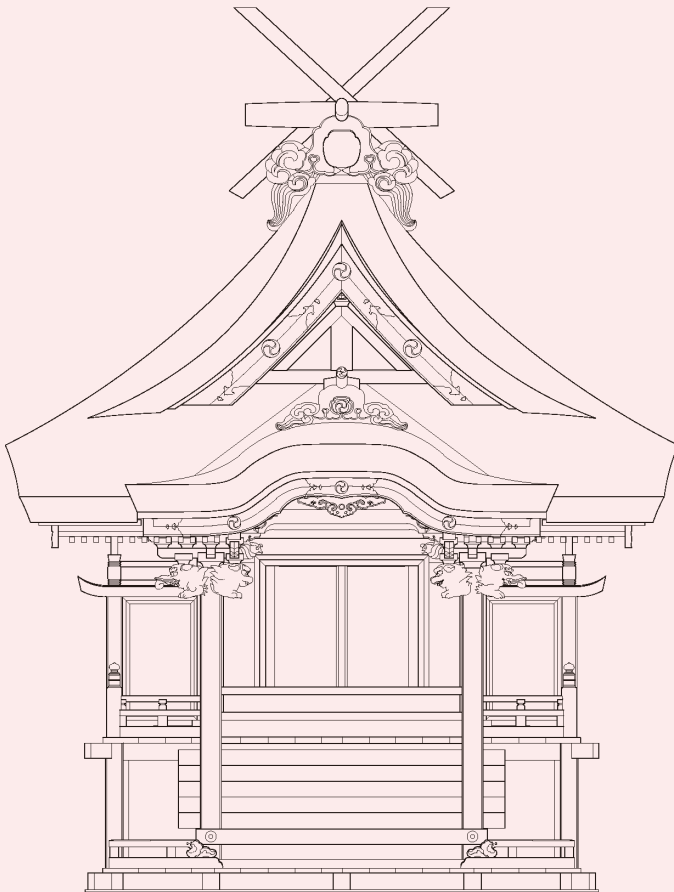




公益財団法人
和歌山県文化財センター一年報

埋蔵文化財発掘調査と文化財建造物保存修理の記録

2023





1 岩橋千塚古墳群寺内地区(北東上空から)



2 八反田遺跡 竪穴建物内土器出土状況(南西から)

巻頭写真 2



3 白岩丹生神社本殿



4 東田中神社境内社旧竹房神社本殿

目次

令和5（2023）年度 受託業務一覧…………… 2	令和5（2023）年度 受託業務所在地図…………… 3
---------------------------	-----------------------------

埋蔵文化財の発掘調査・出土遺物等整理・支援等

岩橋千塚古墳群寺内地区の発掘調査等…………… 4
和田岩坪遺跡の発掘調査等…………… 6
前田遺跡の発掘調査…………… 7
吉原遺跡、松原経塚の出土遺物等整理…………… 8
東郷遺跡の出土遺物等整理…………… 8
里野中山城跡、結城城跡、浦屋敷跡の出土遺物等整理…………… 9
岩橋千塚古墳群の分布調査及び出土遺物等整理支援…………… 9
令和5年度県内遺跡発掘調査等事業に伴う 確認調査等支援…………… 10
慈尊院近世堤防総合調査に伴う出土遺物等整理支援…………… 11
令和5年度埋蔵文化財出土遺物等の整理支援…………… 11
荊木遺跡の出土遺物整理支援…………… 12
由良要塞跡友ヶ島地区の第1次確認調査支援…………… 12
土生城跡の発掘調査支援…………… 13
山崎城跡の確認調査支援…………… 13
田辺市内遺跡確認調査等支援…………… 14
安宅氏城館跡の確認調査支援…………… 14
八反田遺跡の発掘調査支援…………… 15
高野町内石造文化財の調査支援…………… 17
道成寺境内保存活用計画策定の部分支援…………… 17

文化財建造物の保存修理技術指導

重要文化財 白岩丹生神社本殿の保存修理…………… 18
国宝 金剛峯寺不動堂の保存修理…………… 20
県指定文化財 志磨神社本殿の保存修理…………… 21
県指定文化財 東田中神社境内社旧竹房神社本殿の 保存修理…………… 22
県指定文化財 西田中神社羊宮神社本殿・八幡神社本殿の 保存修理…………… 23
和歌公園観海閣新築工事…………… 24
重要文化財 丹生官省符神社本殿防災施設等事業…………… 25
史跡 丹生都比売神社禊橋の保存修理…………… 25

関連研究・資料紹介

日高郡北部の製塩土器・土鍾について…………… 26

普及活動

令和5（2023）年度の普及活動…………… 30

センター概要

令和5（2023）年度概要…………… 33

巻頭写真

- | | |
|---------------------------|-------------------|
| 1 岩橋千塚古墳群寺内地区(北東上空から) | 3 白岩丹生神社本殿 |
| 2 八反田遺跡 竪穴建物内土器出土状況(南西から) | 4 東田中神社境内社旧竹房神社本殿 |

例言

- 1 本書は、公益財団法人和歌山県文化財センターが令和5年度受託業務として行った埋蔵文化財の発掘調査・出土遺物等整理・支援業務、文化財建造物の保存修理技術指導業務・調査・技術支援、文化財の計画・調査支援及び普及活動の成果をまとめたものである。
- 2 掲載した地図は、和歌山県教育庁生涯学習局文化遺産課が発行する「和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図」『和歌山県地理情報システム』<https://wakayamaken.geocloud.jp/mp/> 4(和歌山県総務部行政企画局情報基盤課)(地図は、国土地理院発行の数値地図)の複製を一部加筆し引用した。
- 3 掲載写真・図面は、基本的に事業の実施に伴い撮影・作成したものであり、出典が異なる場合は個別に記した。また、本文中の所見は、調査・整理事業中のものであり、今後の作業の進展により変更する可能性がある。
- 4 原稿執筆は職員が分担して行い、文末に執筆者名を記した。編集・組版は、石丸彩・大給友樹が担当した。

令和5(2023)年度 公益財団法人和歌山県文化財センター受託業務一覧

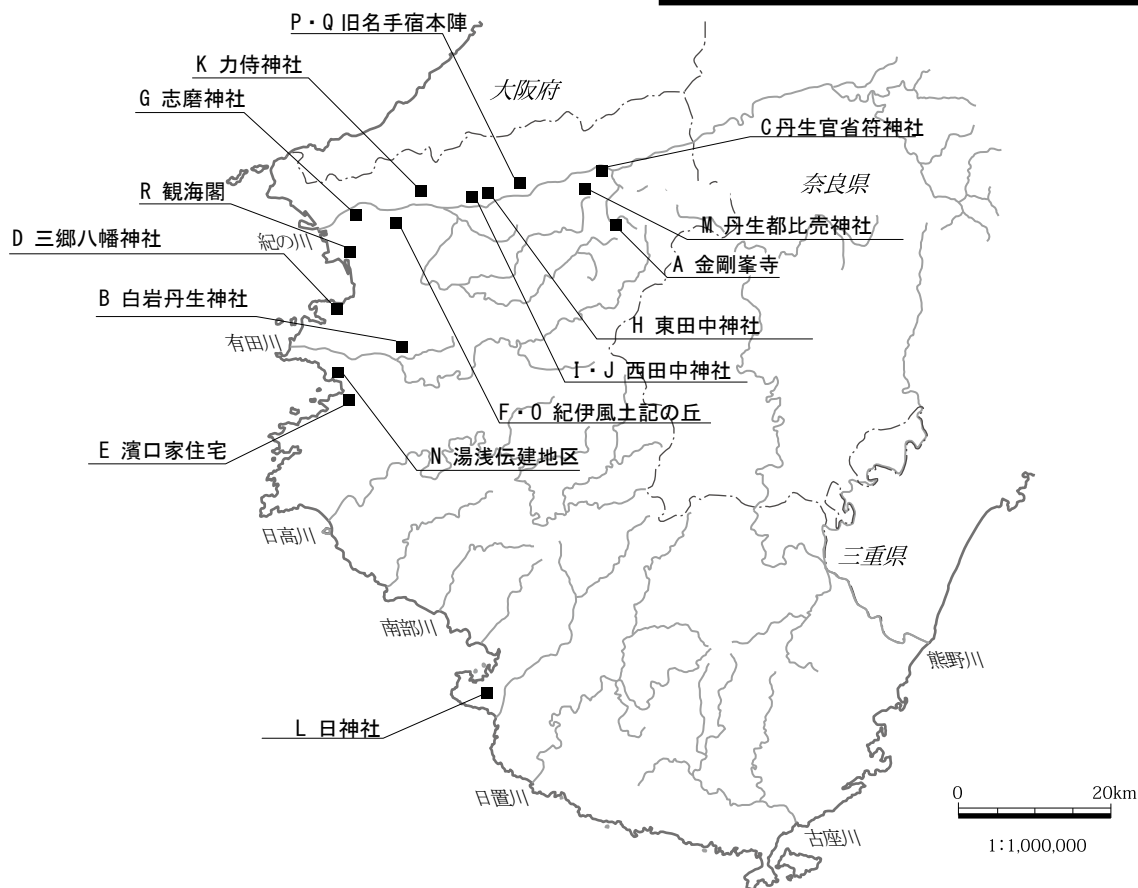
埋蔵文化財の発掘調査・出土遺物等整理・支援等業務					
	受託業務の名称	所在地	契約期間	調査面積	委託機関等
1	和歌山平野農地防災事業新溝支線水路工事等に伴う埋蔵文化財発掘調査等業務(和田岩坪遺跡第2次発掘調査・出土遺物等整理)	和歌山市和田	2023.04.13～ 2024.03.31	144.2㎡	近畿農政局和歌山平野農地 防災事業所
2	和歌山平野農地防災事業新溝支線水路工事等に伴う埋蔵文化財発掘調査業務(岩橋千塚古墳群(寺内地区)発掘調査・出土遺物等整理)	和歌山市森小手穂	2023.04.13～ 2024.03.31	428.2㎡	近畿農政局和歌山平野農地 防災事業所
3	県営中山間総合整備事業佐井地区ほ場整備事業に伴う前田遺跡発掘調査業務	日高郡日高川町佐井	2023.10.20～ 2024.03.13	867.7㎡	和歌山県
4	令和5年度岩橋千塚古墳群追加指定事業に伴う分布調査等支援業務	和歌山市森小手穂ほか	2023.04.15～ 2024.02.29	-	和歌山県
5	田辺市内遺跡確認調査等支援業務	田辺市内	2023.04.17～ 2024.03.29	-	田辺市
6	令和5年度県内遺跡発掘調査等事業に伴う確認調査等支援業務(確認調査等・出土遺物整理)	和歌山県内	2023.04.21～ 2024.03.31	-	和歌山県
7	令和5年度埋蔵文化財出土遺物等整理支援業務	和歌山市岩橋	2023.04.21～ 2024.03.21	-	和歌山県
8	江川小松原線通常路緊急対策事業に伴う東郷遺跡出土遺物等整理業務	日高郡日高川町土生	2023.04.29～ 2024.01.31	-	和歌山県
9	柏御坊線交付金交通安全事業に伴う吉原遺跡、松原経塚出土遺物等整理業務	日高郡美浜町吉原	2023.05.30～ 2024.03.08	-	和歌山県
10	史跡道成寺境内保存活用計画策定部分支援業務	日高郡日高川町鐘巻	2023.06.12～ 2024.03.31	-	株式会社都市景観設計
11	すさみ申本道路建設事業に伴う里野中山城跡、結城城跡及び浦屋敷跡出土遺物等整理業務	西牟婁郡すさみ町里野、東牟婁郡申本町有田・江田	2023.08.04～ 2024.02.29	-	近畿地方整備局紀南河川国 道事務所
12	町道和佐栗屋谷線道路改良工事に伴う確認調査支援業務	日高郡日高川町和佐	2023.09.09～ 2023.10.16	-	日高川町
13	八反田遺跡(比奈久保線)発掘調査支援業務	新宮市木ノ川	2023.09.26～ 2024.03.26	-	新宮市
14	荊木遺跡出土遺物整理支援業務	日高郡日高町萩原	2023.10.14～ 2023.12.28	-	日高町
15	高野町文化財保存活用地域計画調査(石造文化財調査)支援業務	伊都郡高野町東富貴ほか	2023.11.01～ 2024.03.31	-	高野町
16	農道土生下出線改良工事に伴う発掘調査支援業務	日高郡日高川町土生	2023.11.28～ 2023.12.28	-	日高川町
17	安宅氏城館跡確認調査支援業務	西牟婁郡白浜町日置川	2024.02.09～ 2024.03.25	-	白浜町
18	由良要塞跡友ヶ島地区第1次確認調査支援業務	和歌山市加太	2024.02.09～ 2024.03.27	-	公益財団法人和歌山市文化 スポーツ振興財団
19	令和5年度慈尊院近世堤防総合調査に伴う出土遺物等整理支援業務	伊都郡九度山町慈尊院	2024.02.23～ 2024.03.22	-	和歌山県
文化財建造物の保存修理技術指導業務等					
	受託業務の名称	所在地	実施期間	棟数	委託機関等
A	国宝 金剛峯寺不動堂 保存修理技術指導	伊都郡高野町高野山	2023.11.1～ 2024.10.31	1棟	公益財団法人 高野山文化財保存会
B	重要文化財 白岩丹生神社本殿 保存修理技術指導	有田郡有田川町小川	2022.11.02～ 2023.10.31	1棟	宗教法人白岩丹生神社
C	重要文化財 丹生官省符神社本殿防災施設等事業に関する技術支援	伊都郡九度山町慈尊院	2023.07.03～ 2024.03.31	1棟	N-E.E.D設備・設計・監理 西 達也
D	重要文化財 三郷八幡神社本殿 保存修理基本設計	海南市下津町黒田	2024.02.28～ 2024.03.29	1棟	宗教法人三郷八幡神社
E	令和4年度 重要文化財 濱口家住宅改修基本設計	有田郡広川町広	2023.01.11～ 2024.03.31	-	広川町
F	令和5年度 紀伊風土記の丘重要文化財民家等保存修繕設計監理技術指導	和歌山市岩橋	2024.03.07～ 2024.03.29	-	和歌山県
G	県指定文化財 志磨神社本殿 保存修理技術指導	和歌山市中之島	2023.02.27～ 2023.06.30	1棟	宗教法人志磨神社
H	県指定文化財 東田中神社境内社旧竹房神社本殿 保存修理技術指導	紀の川市打田	2022.09.01～ 2023.09.29	1棟	宗教法人東田中神社
I	県指定文化財 西田中神社羊宮神社本殿・八幡神社本殿 保存修理技術指導	紀の川市中井阪	2023.10.13～ 2024.09.30	2棟	宗教法人西田中神社
J	県指定文化財 西田中神社羊宮神社本殿・八幡神社本殿 保存修理基本設計	紀の川市中井阪	2023.08.01～ 2023.08.31	2棟	宗教法人西田中神社
K	県指定文化財 力侍神社本殿・摂社八王子神社本殿 保存修理基本設計	和歌山市川辺	2023.07.25～ 2023.09.29	2棟	宗教法人力侍神社
L	県指定文化財 日神社本殿ほか保存修理基本設計	西牟婁郡白浜町十九洲	2023.07.12～ 2023.09.29	3棟	宗教法人日神社
M	丹生都比売神社境内歴史活き活き!史跡等総合活用整備事業における視橋保存修理工事技術指導	伊都郡かつらぎ町上天野	2023.06.23～ 2024.03.31	1棟	宗教法人丹生都比売神社
N	湯浅伝建地区 保存修理技術指導等委託	有田郡湯浅町湯浅	2023.04.29～ 2024.03.28	-	湯浅町
O	令和5年度 紀伊風土記の丘竪穴住居根萱替保存修繕技術支援	和歌山市岩橋	2023.07.11～ 2024.03.22	-	和歌山県
P	旧名手宿本陣第1期整備事業報告書作成支援	紀の川市名手市場	2023.06.02～ 2023.12.31	-	紀の川市
Q	旧名手宿本陣第2次整備事業概算額見直し業務	紀の川市名手市場	2023.07.15～ 2023.08.18	-	紀の川市
R	和歌公園観海閣新築工事設計意図伝達業務	和歌山市和歌浦中	2023.08.02～ 2025.03.03	1棟	和歌山県

令和5(2023)年度 受託業務所在地図

埋蔵文化財の発掘調査・支援業務等



文化財建造物の保存修理技術指導業務等



岩橋千塚古墳群寺内地区の発掘調査等

遺跡の時代：古墳時代後期～古代、中世
所在地：和歌山市森小手穂
調査の原因：和歌山平野農地防災事業新溝支線水路工事
調査期間：2023.07～2023.11
整理期間：2023.08～2024.03
調査コード：23-01・187

はじめに

岩橋千塚古墳群寺内地区は、和歌山県和歌山市の南西部に位置する。市域の北側を大断層である中央構造線が東西に横断し、断層の北側は内帯、南側は外帯に分けられる。紀の川はこの中央構造線に沿って西流し、市西部で紀伊水道に注いでいる。紀の川の北側には大阪府との府県境界となる和泉山脈が東西に延びており、南側には三波川変成帯が広がっているが長年の浸食により和歌山平野には大小の山塊が点在している。岩橋千塚古墳群もこれらの山塊及びその周囲に展開しており、寺内地区は岩橋千塚古墳群の南西部に位置している。また、寺内地区内の南西部は古墳時代から中世にかけての散布地として知られる相方遺跡も所在しており、今回の調査地は平成27年度に実施した「和歌山橋本線道路改良工事及び近畿自動車道松原那智勝浦線（仮称）和歌山南スマートインターチェンジ建設工事」（寺内古墳群、相方遺跡第1次発掘調査）の調査区西端に接する部分である。調査地の現状は道路、農業用水路及び果樹園で調査面積は428.2㎡である。



岩橋千塚古墳群寺内地区の位置図（S=1/20,000）

発掘調査

調査は調査地北側の道路部分を調査区1、南側の既設水路及び果樹園部分を調査区2として各区ごとに調査を実施した。

調査区は現況の道路及び水路建設時とみられる掘削や造成土により既に遺存しない部分が多く存在していたが、調査により、古墳時代後期から古代の土坑や小穴、溝、古代から中世にかけて埋没した自然地形の落込み、中世に開削された溝の痕跡等を確認した。



古墳時代後期から古代の遺構（北西上空から）

古墳時代後期から古代の土坑、小穴、溝からは弥生土器、土師器、須恵器が出土しており、また、調査区2の中央部においては、調査区南側に位置する丘陵の谷地形が埋没したと考えられる堆積土を確認した。



自然地形の落込みの土層断面（西から）

調査区1からは中世に開削されたと見られる溝の痕跡を確認したものの、道路の造成により遺存状況は悪く、土層の堆積状況もごく一部しか確認できなかった。



遺構実測作業

出土遺物は、弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、陶磁器、瓦（近世）などがある。



遺物内容登録作業

出土遺物等整理

出土遺物等整理業務はコンテナ（遺物収納箱／容量28ℓ）4箱を対象に行った。

主な出土遺物は弥生土器、土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、陶磁器、瓦（近世）で、水洗は応急整理として前述の発掘調査と並行して実施したため、整理作業は遺物の注記・登録・接合・補強・復元を行った後、遺物実測図作成・トレース、遺構図のトレースを実施した。その後、遺物写真の撮影を行い、調査で撮影した遺構写真、遺物・遺構図のトレース図とともに組版を行った。また、遺物観察表を作成し、一連の作業を踏まえ原稿執筆と編集・校正を実施し、令和6年3月



遺物実測作業

に報告書を刊行した。

調査の成果

発掘調査で確認した中世の溝と見られる痕跡は既往調査の成果などから中世において日前宮が土地開発に伴い開削した宮井新溝と推定する。現況の水路はこの宮井新溝を踏襲する形で掘削された可能性が高い。

また、調査区2の土坑や小穴から古墳時代後期とみられる須恵器大甕の破片を複数体分出土したことから、調査地南側の丘陵及び斜面上に古墳が所在する可能性を示唆するものとする。しかし、現状では調査区南側の丘陵及び斜面上には古墳が確認されていないことから、未確認の古墳が存在している、もしくは存在していたが開墾等により削平された可能性がある。

今回の調査では、須恵器の大甕の破片が出土したことを除いて、直接的な古墳の存在を示す遺構・遺物は確認できなかった。出土した遺物の年代は平成27年度に発掘調査が行われた相方遺跡の出土遺物と重なる。このことから、寺内地区の南西部、特に丘陵末端においては、古墳群という性質よりも隣接する相方遺跡の影響を強く受けており、相方遺跡が展開する範囲は現在よりもさらに南へ広がる可能性が高い。

（濱崎 範子）

和田岩坪遺跡の発掘調査等

遺跡の時代：弥生時代後期～鎌倉時代
所在地：和歌山市和田
調査の原因：名草排水機場建設工事
調査期間：2023.07.19、2023.08～2023.09
整理期間：2023.04～2024.03
調査コード：22-01・302

はじめに

令和4年度に実施した1区・2区の調査では、弥生時代後期～古墳時代前期の自然流路を検出しているが、その北側隣接地において3-1区及び3-2区の発掘調査を実施した。

調査の成果

調査地の大半が旧名草排水機場建設工事による攪乱のため遺構はほとんど残存していなかった。攪乱土下で遺構検出をおこない、土坑や杭跡などの遺構を検出した。遺構検出面である基盤層は砂層で、水成堆積であったと考えられる。

出土した土器が細片であったため、各遺構の時期は判然としないが、弥生時代後期から中世の遺構であると推測できる。1区・2区で検出した自然流路は3-1区・3-2区の範囲内には続いておらず、東側を流れていたと考えられる。出土遺物は、遺物収納コンテナ（28ℓ/箱）3箱分及び木製品6点である。



和田岩坪遺跡の位置図 (S=1/20,000)

出土遺物等整理業務の内容

令和4年度の出土遺物整理業務では、1区・2区で出土した遺物収納コンテナ（28ℓ/箱）130箱分の土器類及び木製品約70点の水洗作業を実施した。令和5年度は、3-2区で出土した3箱を加えた133箱について、注記、登録、土器の接合・補強・復元作業、出土遺物の実測、遺構実測図のトレースを実施した。これ以降の整理業務及び報告書執筆は令和6年度に実施予定である。

木製品のうち重要であると考えられる50点について、高級アルコール法による保存処理を実施した。

遺構・遺物の評価

令和4年度の調査では、弥生時代後期末～古墳時代前期の土器を多量に含む自然流路を検出していたが、今年度の調査範囲には自然流路は続いておらず、流路の西岸部分にあたる。自然流路から弥生時代後期末から古墳時代前期の多量の土器が出土したことから、隣接地で当該期の大規模集落があったものと想定されるが、3-1区・3-2区では遺構・遺物ともに少ないことから、集落の範囲には該当しないことがわかった。杭跡が多く検出されたことから、耕作地等に利用されていた可能性がある。（仲原 知之）



和田岩坪遺跡3-2区検出遺構（南から）

前田遺跡の発掘調査

遺跡の時代：古代～室町時代
所在地：日高郡日高川町佐井地内
調査の原因：ほ場整備事業
調査期間：2024.01～2024.02
調査コード：23-29・016

はじめに

前田遺跡は、日高平野を西流する日高川の中流域において大きく蛇行する T.P.+68 m ほどの左岸の河岸段丘上に位置する散布地である。遺跡は東西 150 m、南北 200 m の範囲に広がっており、今回の調査地は遺跡の東辺部にあたる。

昭和 47 年に県教育委員会によって行われた分布調査で、昭和 28 年の日高川水害の際に、水田から石鏃や石匙等の石器、縄文時代後期から晩期の縄文土器が露出したと報告されている。過去、発掘調査は行われておらず詳細は不明であったが、今回の調査でも昭和 28 年の日高川水害の痕跡である砂礫層やそれ以前の土石流もしくは水害の痕跡が確認されている。

当遺跡の北西後背にあたる、後山の南西の小ピークに所在する中世の砦跡である後山城跡で石垣等が確認されている。

調査の成果

第 1 層現代の耕作土と第 2 層床土、部分的に第 3 層砂礫層の一部を掘り下げた、第 4 層上面で、溝 2 条、土坑・小穴を確認した。



前田遺跡の位置図 (S = 1/20,000)

01 溝は調査区西側に位置し、現在の水田の境界に沿って所在する南北方向の溝である。長さ 20.8 m、幅 0.8～1.3 m、深さ 0.09～0.20 m である。この溝と平行して、02 溝が東に隣接し確認された。出土遺物は、土師器皿・土釜・黒色土器・瓦器椀・須恵質土器捏鉢・青磁碗・国産陶器等ですべて破片であり、管状土錘も出土している。02 溝は、北部 (長さ 5.5 m)・中央部 (長さ 11.1 m)・南部 (長さ 8.5 m) に分かれているが、元々 1 条の溝の上部が削平されて底部が残存したと思われる。幅 0.7～1.0 m、深さ 0.38 m の南北方向の溝で、出土遺物は、土師器・黒色土器・瓦器・須恵質土器等である。

遺構・遺物の評価

01 溝・02 溝は、河岸段丘の傾斜に沿ってつくられた棚田である、現代水田の境界に平行に存在し、溝 2 条自体が傾斜に沿って平行に南北方向に流れていた。これらの溝は、水田に伴う用水路であると思われるが、その後、用水路として使用されなくなり、埋没した。その時期が、出土遺物から室町時代ごろと考えられる。

このことから、日高川の河岸段丘上で土錘等が出土したことから日高川で漁を行い、生活したことがうかがえる。出土遺物から、調査地点周辺で、古くは古代には、周辺の河岸段丘にひとびとが移り住み、生活を始めたと考えられる。また、中世土器や中国製青磁碗片が遺構の埋土、第 2 層床土や第 4 層遺構面上面から確認されることから、当遺跡の北西後背にあたる、中世の城跡である後山城跡との関連がある可能性が高い。(田之上 裕子)



発掘調査地と日高川、後山を臨む (西から)

吉原遺跡、松原経塚の出土遺物等整理

遺跡の名称：吉原遺跡
所在地：日高郡美浜町吉原
調査の原因：柏御坊線交付金交通安全事業
整理期間：2023.05～2024.03
調査コード：22-25・010、012

はじめに

吉原遺跡、松原経塚は日高郡美浜町吉原に所在する。周辺は日高川河口右岸に形成された海岸砂丘で、弥生時代から近世にかけての墓域として知られ、これまで約4,700㎡が調査されている。発掘調査は県道柏御坊線交通安全施設等整備事業に伴うもので和歌山県から委託され令和4・5年度に面積369.6㎡を対象に実施した。

調査によって弥生時代の方形周溝墓を7基・土坑や奈良時代の火葬墓1基を確認している。弥生時代後期末頃の方形周溝墓は墳丘裾の石積みをもつなど、和歌山県内では類例がない構造である。

業務の内容

本業務は、遺物収納コンテナ（容量28ℓ）4箱の土器類などを対象に実施した。

遺物洗浄は、発掘調査に並行して応急整理として実施していたため、それ以後の作業を実施した。整理作業は遺物の注記・登録・接合・補強を行った後、遺物実測図作成・トレース、遺構図のトレースを実施した。その後、遺物写真の撮影を行い、調査で撮影した遺構写真、遺物・遺構図のトレース図とともに組版を行った。また、遺物観察表を作成し、一連の作業を踏まえ原稿執筆と編集・校正を実施し、令和6年3月に報告書を刊行した。（濱崎 範子）



遺構デジタルトレース作業

東郷遺跡の出土遺物等整理

遺跡の名称：東郷遺跡
所在地：日高郡日高川町土生門田
調査の原因：江川小松原線通学路緊急対策事業
整理期間：2023.04～2024.01
調査コード：22-28・041

はじめに

東郷遺跡は弥生時代の集落跡とされる遺跡で、日高平野を流れる日高川の北岸にある低丘陵上に位置する遺跡である。既往調査では、弥生時代中期から古墳時代にかけての竪穴建物跡や溝などを検出し、弥生土器や土師器などの遺物が多数出土している。令和4・5年度にかけて実施した発掘調査は遺跡の北東縁辺部にあたり、中世以前とみられる土坑、小穴、溝などの遺構が多数確認された。出土した遺構・遺物の内容から中世における東郷遺跡での人々の生活痕跡が明らかとなった。

業務の内容

対象となる遺物は遺物収納コンテナ（容量28ℓ／箱）3箱で、内容は土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、近世陶器である。遺物の注記・登録、土器の接合・復元作業、遺物実測、遺構・遺物実測図のトレース、遺物の写真撮影と組版等の整理作業を行なった。原稿執筆、編集・校正等を経て、令和6年1月に報告書を刊行した。（濱崎 範子）



遺物実測作業

里野中山城跡、結城城跡、浦屋敷跡の 出土遺物等整理

遺跡の名称：里野中山城跡、結城城跡、浦屋敷跡
所在地：里野中山城跡：西牟婁郡すさみ町里野
結城城跡：東牟婁郡串本町有田上
浦屋敷跡：東牟婁郡串本町江田
調査の原因：すさみ串本道路建設事業
整理期間：2023.08～2024.02
調査コード：里野中山城跡（第1次） 19-41・012
里野中山城跡（第2次） 21-41・012
結城城跡（第1次） 19-42・022
結城城跡（第2次） 20-42・022
浦屋敷跡 20-42・025

はじめに

すさみ串本道路建設事業に伴い、令和元年度から令和3年度にかけて当センター及び和歌山県教育委員会が発掘調査を行った里野中山城跡（2,088㎡）、結城城跡（271.98㎡）、浦屋敷跡（176.1㎡）から出土した遺物の出土遺物等整理事業を行った。

業務の内容

整理作業は遺物の注記・登録・接合・補強を行った後、遺物実測図作成・トレース、遺構図のトレースを実施した。その後、遺物写真の撮影を行い、調査で撮影した遺構写真、遺物・遺構図のトレース図とともに組版を行った。また、遺物観察表を作成し、一連の作業を踏まえ原稿執筆と編集・校正を実施し、令和6年2月に報告書を刊行した。（濱崎 範子）



遺物実測作業

岩橋千塚古墳群の分布調査及び出土遺物等 整理支援

遺跡の名称：岩橋千塚古墳群
所在地：和歌山市寺内地内ほか
調査の原因：特別史跡の追加指定に係る調査
支援期間：2023.04～2024.02

はじめに

昨年度に引き続き、和歌山県教育委員会が実施する岩橋千塚古墳群追加指定事業に伴う指定地外の内容把握を目的とした分布調査の支援を実施した。また、令和2・3年度に発掘調査された井辺1号墳及び寺内18号墳の出土遺物について整理作業の支援を実施した。

業務の内容

業務内容は、古墳分布調査・古墳分布図トレース・古墳観察表作成、出土遺物の洗浄・実測・トレース・

組版・写真撮影、遺構実測図のトレース、古墳カルテ作成の支援である。

古墳分布調査は井辺・寺内・大日山地区の指定地外において実施し、28基の古墳の清掃及び記録、写真撮影について支援を行った。（仲原 知之）



古墳分布調査（清掃作業）

令和5年度県内遺跡発掘調査等事業に伴う確認調査等支援

遺跡の名称：慈尊院中小路地先遺跡、大芝遺跡、
岩橋千塚古墳群大日山地区、
東牟婁郡串本町神野川地区、新宮市王子ヶ浜
所在地：和歌山県内
調査の原因：県内遺跡発掘調査等事業
支援期間：2023.04～2024.03

はじめに

和歌山県教育委員会が実施する県内遺跡の試掘確認調査等及び出土遺物等整理事業への支援を行った。

支援の内容は試掘確認調査等における準備、実測等の記録、人力掘削及び賃金職員の労務管理等と出土遺物等整理における洗浄、登録、実測、トレース等である。

業務は和歌山県教育委員会職員の指導のもと、当センターの技術職員が必要な人員（賃金職員）を確保し、実施した。

確認調査等の支援

和歌山県内遺跡（慈尊院中小路地先遺跡（慈尊院中世堤防）、大芝遺跡、岩橋千塚古墳群大日山地区、東牟婁郡串本町神野川地区、新宮市王子ヶ浜）の県内各地の遺跡において、調査区の壁面清掃、遺物包含層の掘削、遺構面の精査及び遺構掘削などの人力掘削作業をおこなった。

確認調査等の支援において発掘作業員は延べ16人日分を雇用し、人力掘削他の作業に従事した。また、調査補助員は延べ8人日分を雇用して、確認トレンチの平面図及び土層断面図、検出した遺構の実測、現場撮影や測量の補助等を実施した。



人力掘削作業

出土遺物等整理の支援

出土遺物整理の支援業務として、試掘確認調査により出土した遺物の水洗、注記、登録、実測、トレース等の業務支援を行った。また、確認調査で作成した遺構実測図のデジタルトレース等を行った。出土遺物等の支援業務では整理補助員を延べ27人日分、整理作業員15人分を雇用して、出土遺物の水洗、登録、遺物実測及びトレース、遺構トレース等の作業に従事した。

業務の成果物である遺物登録台帳、遺物実測図原本、トレース図、遺構実測図デジタルデータ等は和歌山県教育委員会に提出している。



遺構図デジタルトレース作業



遺物実測作業

技術職員は発掘調査支援業務で延べ9.5日間、出土遺物等整理支援業務で延べ6.7日間、業務に従事した。作業内訳は業務打合せ、成果品納品、労務管理、現地指示等である。

(濱崎 範子)

慈尊院近世堤防総合調査に伴う出土遺物等整理支援

遺跡の名称：慈尊院Ⅱ遺跡、慈尊院中小路地先遺跡
所在地：伊都郡九度山町慈尊院
調査の原因：慈尊院近世堤防総合調査
支援期間：2024.02～2024.03

はじめに

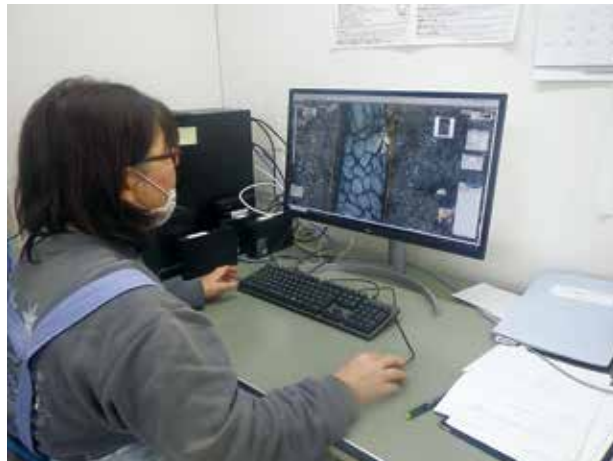
和歌山県が実施する慈尊院近世堤防総合調査に伴う出土遺物等整理事業の一部の作業工程を受託し、支援業務を実施した。

業務の内容

業務内容は、出土遺物の実測・トレース、遺構実測図のデジタルトレースの支援である。

出土した土器類2点、銭貨9点を実測し、その実測図についてデジタルトレースを実施した。銭貨は拓本も実施した。また、石積堤防等の遺構実測図についてはデジタルトレースを実施した。

(仲原 知之)



遺構デジタルトレース作業

令和5年度埋蔵文化財出土遺物等の整理支援

遺跡の名称：岩橋千塚古墳群 前山B地区
所在地：和歌山市岩橋
調査の原因：県立考古民俗博物館建設
支援期間：2023.04～2024.03

はじめに

和歌山県立紀伊風土記の丘が実施する岩橋千塚古墳群前山B地区の出土遺物等整理事業に伴い、出土遺物の注記、登録、接合・補強、実測、トレース、組版の業務支援を行った。支援業務は和歌山県立紀伊風土記の丘職員の指導のもと、当センターの技術職員が必要な人員（賃金職員）を確保し、実施した。

業務の内容

対象とした出土遺物は、遺物収納コンテナ（容量28ℓ）にして8箱で、その内容は土器類・石製品・金属製品などである。整理補助員は延べ56人分、整

理作業員11人分を雇用して、登録、注記、接合、実測及びトレース、組版等の作業に従事した。業務終了後、遺物を収納し、成果品とともに和歌山県立紀伊風土記の丘に納品した。

(濱崎 範子)



金属製品実測作業

荊木遺跡の出土遺物整理支援

遺跡の名称：荊木遺跡
所在地：日高郡日高町萩原
調査の原因：宅地造成
支援期間：2023.10～2023.12

はじめに

令和3年度に宅地造成事業に先立ち、和歌山県教育委員会が実施し、当センターが発掘調査の支援を行った荊木遺跡から出土した遺物の整理業務を支援した。

荊木遺跡は弥生時代の散布地として知られる遺跡で、発掘調査では弥生時代後期と見られる複数の竪穴建物跡が出土し、多数の弥生土器などが出土している。

業務の内容

整理補助員を延べ14日間、整理作業員を延べ1日

間雇用して、遺物実測・遺物トレース等の作業をおこなった。

報告書掲載が必要な遺物の実測・拓本作業を実施した。実測点数は土器類50点、鉄製品1点である。また、業務で実測した遺物実測図のトレース作業は、原図を1/2に縮尺し、手トレースで墨入れを行った。

(濱崎 範子)



実測図トレース作業

由良要塞跡友ヶ島地区の第1次確認調査支援

遺跡の名称：由良要塞跡友ヶ島地区
所在地：和歌山市加太友ヶ島地区
調査の原因：文化財指定に係る調査
支援期間：2024.02～2024.03

はじめに

和歌山市の依頼を受けて、公益財団法人和歌山市文化スポーツ振興財団が実施する由良要塞跡友ヶ島地区の分布調査と確認調査の支援を行なった。

これは、築造当初のままの姿が保存されている友ヶ島の要塞関係の遺構を把握し、国史跡の指定に向けての文化財指定範囲の検討のための調査である。

業務の内容

由良要塞跡友ヶ島地区において、第3・5砲台周辺の分布調査及び砲座跡内の確認調査と遺構や構造物の実測・測量、第2・3・5砲台の監守衛舎跡、発電所跡、

探照灯跡、厠跡等の構造物の3Dデータ作成のためのデジタル写真撮影を実施した。

第3砲台の土塁上にある観測所周辺で、井桁形の刻印をもつ貝塚煉瓦株式会社製煉瓦を使用した煉瓦列を確認した。貝塚煉瓦株式会社は、明治25年に創業し、明治27年に株式会社化した。旧海軍聴音所跡とその周辺の建物基礎跡で、分銅形の刻印をもつ和歌山煉瓦製造所製の煉瓦が使用されている。和歌山煉瓦製造所は大正5年に創業されている。(田之上 裕子)



第5砲台のカノン砲座の緑石実測風景

土生城跡の発掘調査支援

遺跡の名称：土生城跡
所在地：日高郡日高川町土生
調査の原因：農道土生下出線改良工事
支援期間：2023.11～2023.12

はじめに

土生城跡は、日高川の河口部右岸に形成された日高平野の微高地上に築かれた城跡である。付近には「城の内」の地名が残り、南北朝時代に矢田庄の領主であった逸見氏の屋敷であったとされている。

日高川町が実施する土生城跡発掘調査を、日高川町教育委員会、御坊市及び日高郡6町埋蔵文化財保護行政事務協議会担当職員と協議を行い、その指示を受けて当センター技術職員・調査補助員・発掘作業員が現地において支援した。

業務の内容

調査補助員を延べ7日間、発掘作業員を延べ13日+5/9日間雇用して人力掘削、遺構検出等を実施した。

また、調査補助員を7日間雇用して、測量・遺構実測図・土層断面図作成等の作業をおこなった。出土遺物や作成した図面等成果物については日高川町、御坊市及び日高郡6町埋蔵文化財保護行政事務協議会がとりまとめて保管している。

調査の成果

調査は約90㎡を対象に実施し、調査区東側では古代と考えられる複数の掘立柱建物や中世の土坑・溝状遺構などを検出した。また、調査区西側では、幅約9.0m、深さ1.8mの堀を検出した。（濱崎 範子）



遺構実測作業

山崎城跡の確認調査支援

遺跡の名称：山崎城跡
所在地：日高郡日高川町和佐
調査の原因：町道と佐栗屋谷線道路改良工事
支援期間：2023.09～2023.10

はじめに

山崎城跡は、日高川河口より約6km遡った日高川左岸の河岸段丘上に位置する城跡である。南北朝時代を中心に日高川流域を支配した川上氏の屋敷地であったとされている。

日高川町が実施する山崎城跡確認調査を、当センター技術職員・調査補助員・発掘作業員が現地において支援した。作業の実施に当たっては、日高川町教育委員会、御坊市及び日高郡6町埋蔵文化財保護行政事務協議会担当職員と協議を行い、その指示を受けて実施した。

調査の成果

調査補助員を延べ3日間、発掘作業員を延べ3日間雇用して、掘削作業や実測図作成補助等の作業をおこなった。出土遺物や業務で作成した図面等の成果物については日高川町、御坊市及び日高郡6町埋蔵文化財保護行政事務協議会がとりまとめて保管している。

確認調査では丘陵部において小穴や溝状遺構を検出した。また、出土した瓦器や土師器、東播系須恵器などは、時期的にも伝承の真実性を裏付ける資料と言える。（濱崎 範子）



遺構掘削作業

田辺市内遺跡確認調査等支援

遺跡の名称：北沖代遺跡・八丁田圃遺跡
所在地：北沖代遺跡：田辺市稲成町 123 番
八丁田圃遺跡：田辺市下万呂目座 113 番 1,3
支援期間：2023.04～2024.03

はじめに

田辺市教育委員会が実施する田辺市内遺跡確認調査等の支援を行った。支援を行ったのは北沖代遺跡及び八丁田圃遺跡の確認調査及び八丁田圃遺跡の本発掘調査である。

北沖代遺跡は会津川の支流である稲成川右岸の丘陵裾に展開する古墳時代から古代にかけての遺跡、八丁田圃遺跡は左会津川と右会津川が形成した沖積平野に広く展開する遺跡で、過去に実施された発掘調査などから、縄文時代から中世にかけての複合遺跡であることが分かっている。

調査の成果

技術職員は労務管理、実績報告書作成及び現地作業

の支援に約 36 日間従事した。また、八丁田圃遺跡では確認調査後、本発掘調査を実施することとなり、調査補助員を延べ 11 日間、発掘作業員を延べ 4 日間雇用して、掘削・精査作業や実測図作成等の作業を実施した。

八丁田圃遺跡本発掘調査では、調査の結果、調査区の中央付近で落ち込み（低地）を確認し、その北側と南側を中心に弥生時代の竪穴状遺構や土坑、古代から中世の多数の柱穴などを検出した。（濱崎 範子）



八丁田圃遺跡本発掘調査 遺構検出作業

安宅氏城館跡の確認調査支援

遺跡の名称：安宅氏城館跡（大野城跡、大向出城跡）
所在地：西牟婁郡白浜町日置川地内
調査の原因：確認調査
支援期間：2024.02～2024.03

はじめに

白浜町が実施する安宅氏城館跡の確認調査に伴い、大野城跡、大向出城跡の確認調査について支援業務を実施した。

支援業務では発掘作業員 20 名を雇用し、技術職員は延べ 4.2 日間従事して、賃金職員の雇用事務や労務管理、現場での監督作業等を行った。

調査の成果

支援業務として、大野城跡、大向出城跡に設定された各調査区の人形掘削や、壁面・遺構面の精査等の作業を行った。また、白浜町教育委員会職員の指示のもと、測量・実測の補助等を実施した。

（濱崎 範子）



人形掘削作業

八反田遺跡の発掘調査支援

遺跡の名称：八反田遺跡
所在地：新宮市木ノ川
調査の原因：道路改良工事
支援期間：2023.10～2023.12
調査コード：HTD23

はじめに

新宮市により市道比奈久保線交差点改良工事（道路拡幅工事）が計画された。予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である「八反田遺跡」に該当することから調査対象面積 361㎡で、記録保存を目的とした本発掘調査を新宮市教育委員会が行うことになり、それについて当センターが支援した。



八反田遺跡の位置図 (S=1/20,000)

調査の成果

八反田遺跡は、新宮市木ノ川に存在し、那智勝浦町との境界に近い、佐野川と木ノ川の沖積平野に所在する。2つの川の合流地点に位置し、弥生時代の遺跡として知られている。今回の調査地は遺跡の北西部にあたり、発掘調査前の現況は耕作地であった。

既往の調査が、佐野川改修工事に伴って 1991 年度に実施され、弥生時代後期末の集落跡が確認されるとともに、弥生時代中期から後期の土器が出土し、在地産の弥生土器とともに他地域からの搬入土器も出土している。八反田遺跡と同じく、佐野川による沖積平野に流れる佐野川と荒木川の合流地点にある佐野遺跡でも、弥生時代から古墳時代にかけての遺構や出土遺物が見られ、他地域からの搬入土器も出土している。

今回の調査では、基本層序の第 6 層上面で第 1 遺

構面、部分的に第 7 層（整地層）上面で第 2 遺構面、第 8 層上面で第 3 遺構面を確認した。第 7 層については調査区全体にはなかったが、中央部から南部で確認した。

第 1 遺構面では、竪穴建物 1 棟と柱穴、区全体に南北方向と東西方向の複数の溝、土坑等が確認された。

197 竪穴建物は、平面形は 5 m 四方の隅丸方形で、幅 0.2 m、深さ 0.1 m の周壁溝が平行に 2 条めぐることから建て替えがされていることが分かった。土層断面から内側の周壁溝が古く、外側の周壁溝が新しく、このことから外側に拡張されたと考えられる。拡張された建物の南北軸は 5.6 m、東西軸は 5.0 m、元の建物の南北軸は 4.9 m、東西軸は 4.6 m である。しかし、建物の東辺は調査区外にあたり、周壁溝が 1 条しか確認できなかったため、建て替え時に東側に拡張されたかは不明である。埋土第 1 層には、完形に近い弥生土器がまとまって出土しており、高坏や甕、台付甕が多く見られた。これらの土器は建物の床面より高い位置から出土したため、建物に伴う土器ではなく、建物として使用されなくなった後に廃棄されたものと思われる。

調査区中央部にある溝に沿って杭列が打設され、溝肩部の土留めや区画としての役割をもつものと思われる。竪穴建物、その周辺に多くの土坑や柱穴等の遺構がつくられ、集落として、生活に適した環境づくりがなされたものと思われる。竪穴建物は廃絶後に、弥生時代後期後葉の土器廃棄場となっているが、集落が引き続き存続したと思われる。

第 2 遺構面でも、全体は不明であるものの、方形と思われる竪穴建物とその柱穴が確認された。199 竪穴建物は調査区南部に位置し、一辺が 3.1 m、深さ 0.3 m で、平面形はやや歪な隅丸方形と思われるが、西側は調査区外に続いたため、平面形が方形もしくは長方形であるか不明である。西辺に柱穴と思われる遺構 388・390 が確認された。周辺には、弥生時代後期中葉の土器を含む溝や土坑、柱穴等が多く確認され、集落が存続したと思われる。

第 3 遺構面では、竪穴建物は確認できなかったが、弥生時代中期後葉から後期前葉の土器を含む溝や土坑、柱穴群等が多く確認された。

調査区中央部の柱穴群は、掘立柱建物を構成する可

能性がある。周辺の遺構との関係性を含めて、今後の整理作業で検討を要する。

調査区南側の400落込み、調査区北側の565落込みで弥生時代後期の土器が多く出土した。落込みに関しては、堆積状況を確認する調査区を設定して堆積状況や土器出土状況の確認を行った。南北端部にそれぞれ、同時期の土器を多く含む落込みが確認されたことから、周辺に集落があり、廃棄場としたと考えられる。

遺構・遺物の評価

今回の調査では、第1・2遺構面では竪穴建物が各1棟ずつ、すべての遺構面では柱穴・土坑・溝等が確認された。第3遺構面では、多くの柱穴群、弥生時代後期後葉の土器の廃棄場になったと思われる南端と北端の落込みを確認した。このことから調査地とその周辺に集落が存在したと考えられる。

畿内、県北部や中部では、弥生時代中期から後期にかけて平野部の集落が一時期に廃絶し、廃絶時期に高地性集落が多く営まれる傾向にある。今回の調査や既

往の調査では、その時期に平野部の集落が存続したことが確認できたため、当該地及びその時期の集落のあり方については検討が必要である。

既往の調査で出土した弥生時代から古墳時代にかけての土器には、県北部や河内、東海地方のS字状口縁部をもつ甕や近江系甕等の搬入土器と思われるものがあり、東と西との交流が活発であった地域だと考えられる。
(田之上 裕子)



第1遺構面 197 竪穴建物内土器出土状況（西から）



第1遺構面 197 竪穴建物内土器取上げ風景（南東から）



第2遺構面 199 竪穴建物完掘状況（北東から）



第1遺構面 197 竪穴建物（西から）



第3遺構面 完掘状況（南東から）

高野町内石造文化財の調査支援

文化財名称：高野町内石造文化財
所在地：伊都郡高野町東富貴ほか
概要：石造文化財所在調査
支援期間：2023.11～2024.03

はじめに

高野町が実施する文化財保存活用地域計画の策定に必要な石造文化財調査において、現地調査の実施、石造文化財所在位置図作成及び石造文化財台帳作成の業務支援を実施した。

業務の内容

高野山内以外の地域の施設や住居等の敷地内、寺院の山門内を除いた場所を対象として令和6年3月に3日間にわたって石造文化財の所在把握を目的とした踏査を実施した。

時代の新旧を問わず石造文化財の所在を確認した場

合は、所在場所・寸法の計測・銘文の判読・時期の把握・写真撮影等の記録作業を行った。これらの記録は、12500分の1の地形図に石造文化財の位置をプロットした図面を作成するとともに、石造文化財台帳として石造文化財の一覧表の作成を行なった。これらの成果はデジタルデータで高野町教育委員会へ納入した。なお、今回の調査においては、41箇所、366点の石造文化財が確認された。（高橋 智也）



調査風景

道成寺境内保存活用計画策定の部分支援

文化財名称：史跡 道成寺境内
所在地：日高郡日高川町鐘巻
概要：計画策定支援
支援期間：2023.06～2024.03

はじめに

史跡道成寺境内は、中世から近世の伽藍が顕在化している一方で、多くの建造物や仏像が存在し、また、創建当時の古代の伽藍配置が発掘調査によって明らかになっている等、各時代における構成要素が混在している。これらの把握や史跡の価値の再確認を行い、今後の適切な管理活用及び整備を行うために、宗教法人道成寺が令和4～6年度の予定で保存活用計画の策定を実施している。本業務は、支援業務を受託した株式会社都市景観設計より歴史や文化財に関する項目の素案検討等の業務委託を受けて実施した。

業務の内容

業務は、史跡指定範囲及びその周辺を対象とした保存活用計画素案のうち史跡及び周辺の概要のブラッシュアップ及び保存に関する項目の案を作成した。これらの計画案は、令和5年11月17日及び令和6年2月12日に実施された史跡道成寺境内保存活用計画策定委員会において、検討が行われた。なお、この検討委員会において、事前打合せへの参加及び運営補助等の支援を行った。（高橋 智也）



検討委員会開催の様子

重要文化財 白岩丹生神社本殿 の保存修理

建築年代：永禄3年（1560）
所在地：有田郡有田町小川
事業の種類：屋根葺替、部分修理
事業期間：2022.11～2023.10

沿革について

白岩丹生神社の創始については明らかでないが、もとは白岩山東麓の白岩谷の溪流に面してあったのを明応5年（1496）に現在地に遷したと伝わる。本殿（写真1）建立については、残存している棟札等から、永禄3年（1560）と推察されている。建立以来修理が繰り返されるなかで、明治初年（1868）に塗装洗い落としを行い、拝殿建築時の明治40年には周辺の岩壁をはつり、本殿を後ろに曳家しているが、その際にも浜縁等の修理が行われている。その後、昭和34年（1959）から国庫補助事業による解体修理を行い、屋根・小屋組等を当初復原している。

修理工事の概要

平成元年（1989）の屋根葺替修理に続く、今回の保存修理事業では、これまでに本殿で檜皮屋根葺替、軒先や縁廻りの木部補修のほか、木部表面に繁茂していた藻類の清掃を行った。

仮設工事では、素屋根の組立および解体時に周囲が岩壁に囲まれており、作業域の確保が困難な状況であったが、足元調整を行いながら作業を行った（写真2）。



写真2 素屋根の組立状況



写真1 本殿の修理前全景（南西からみる）

屋根において、旧檜皮解体を行ったところ、軒先部分の野地に腐朽を確認した。修理前に、西側面破損部で応急的に鉄板が被せてあった箇所や、東西軒先で樹木が生育していた部分の破損が顕著であったため、軒先部分の野地取替を行った。屋根上で成長した樹木の根が悪影響を及ぼし、檜皮の状態が悪く、軒積取替を行った部分では随所に漏水を来していた。切裏甲上面では腐朽が進んだ部分が確認されたため、破損が進んだ部分は、新材に取替を行った。修理範囲の切裏甲は洋釘で取り付けられており、昭和35年解体修理時の中古部材と考えられる。切裏甲には白色塗装が木口と下面見えがかり部分に施されていた。今回の事業では塗装工事を行わず、破損が著しい箇所が通常、目視出来ない部分であったため、塗装や色合わせはせず施工を行った（写真3）。続いて、屋根檜皮軒付の積替作業を行った（写真4）。取替範囲において、共皮蛇腹が健全な箇所では、蛇腹を残しつつ積み替えを行った。屋根平葺は旧状に倣い、2尺5寸と1尺5寸皮を併用し葺き上げた。

木部については箱棟の破損が目立っており、千木と



写真3 切裏甲取替状況



写真4 檜皮軒付積替の作業状況

勝男木については腐朽が激しく全材の取替を行った。

鬼板は昭和35年に箱棟を復元した際に取り付けられたもので、全体的に腐朽が進んでおり、下端の欠けが目立った。中古の部材であることから取替える方針とし、修理前と同様の意匠で新調した。そのほか、縁束各箇所腐朽が顕著であった部分を継木補修した。縁束周辺をジャッキアップし、分解を行うことなく作業を進めた。

藻類の清掃は、先行事例が確認できなかったことから、東京文化財研究所の助言による薬剤のうち、表面に残存する顔料への影響がエタノールと同程度で、より殺菌力のあるイソプロパノールを選択することにした。濃度希釈を70%以上にするを基本とし、所有者の許可を得た上で、本殿同様に藻類が繁茂する境内建物で実験を行い、素木部分での効果を経過観察したほか、塗装部分の経過観察については取り替えが必要な切裏甲の解体材を利用した(写真5)。藻類は昭和35年修理の塗装下地と考えられる胡粉に繁茂しており、清掃により同部分の藻類とともに胡粉層も若干落ちた箇所が生じたが、それ以前の塗装痕跡や木地に負荷をかけることのないよう、ブラシや筆を用いて、彩色の風食痕の有無を確認しつつ慎重に作業を進めた



写真5 イソプロパノールの経過観察状況



写真6 藻類清掃の作業状況

(写真6)。

本殿の藻類清掃後の部材表面は、以前の塗装掻き落としや昭和修理時の木肌の調整もあり、彩色痕跡を判別することが困難な状態であったが、断片的に確認できた風食痕については記録・整理を行った。

岩壁はつり作業は、雨水の流路を妨げないよう施工範囲を設定し、本殿屋根下まで突き出た部分を対象とした。岩壁は明治40年と昭和35年の修理時にも斫り作業が行われており、表面に細かい傷が多数認められた。素屋根解体後(写真7)に岩壁はつり用足場を組み立てた。作業時に岩壁から岩石が割れ落ちた際に、本殿を傷付けないよう、足場用単管に栈木打ち付けとした合板で養生を施した。今回の作業は小型の電動工具を用いて進めたが、前回の加工痕跡を利用することで落下する破片が小さくなり、安全に施工することができた。施工後は岩壁側背面において環境改善され、雨水のはね返りが軽減された。岩壁はつり作業の完了後に側溝周辺の土砂鋤き取りを行い、事業が完了した。

工期中には現場公開を複数回、実施した。檜皮葺き施工の様子を間近に見てもらい、本殿の修理内容や彫刻について等を解説した。(大給 友樹)



写真7 屋根葺き完了・素屋根解体状況

国宝 金剛峯寺不動堂の保存修理

建築年代：鎌倉時代
所在地：高野町高野山
事業の種類：屋根葺替・部分修理
事業期間：2023.11～2024.10

高野山の中心地、壇上伽藍に隣接して建つ金剛峯寺不動堂は、複雑な形状の屋根が特徴的な優美な建物である。鎌倉時代に建立され、明治期に現在地に移築された後に国宝に指定された。解体修理が施された平成9年から25年が経過し、檜皮屋根に劣化が目立ってきたため、屋根の葺き替えと軒裏の塗装の塗り替え、土間たたきのやり替えを、令和5年11月からの2か年度事業として進めている。

冬の間に檜皮材の調達と拵えを進め、仮屋根付きの工所用足場を建設し、屋根の解体を進めた。

高野山の冬の寒さは厳しく、瓦だと凍てて破損してしまうため、檜皮などの植物性の材料が屋根の葺き材として用いられてきた。しかし盆地である山内の湿度は高く、雨も多いことから、檜皮葺の屋根にも苔などが発生し、屋根や野地を劣化させる要因となる傾向が顕著である。不動堂においても、南面には池が広がり、軒先近くには杉の大木が並ぶ。壇上伽藍が広がる西面も同様で、敷地の境界に生える杉が陽ざしを遮り、定期的に掃除が施されていたものの、落葉等が積もり、種が発芽して屋根に根をはった箇所も散見された。



修理前の金剛峯寺不動堂（東北面）

苔が繁茂した期間が長かったこともあり、屋根の下地である野地面や小屋組の木部の腐朽が進んでいる恐れも懸念されたが、旧屋根の解体を進めた結果、下地の木材の劣化が限定的であることを確認することが出来た。これは前回の解体修理の際に、野地面に防火のための石膏ボードが張り込まれており、野垂木などの小屋組が屋根面の湿気から遮断されていたこと、木舞や裏板など檜皮屋根と直接接する木部に、水気への耐力が高い楨材が用いられていたことなどが効果的に働いたものと考えられる。

一方で、修理前には一部表面に苔の繁茂が認められた他、欠損や顕著な腐朽が確認出来なかった軒積は、長期間濡れた状況が続いてきた影響で、内部に仕込まれた押さえ板や、裏板の一部が腐朽し、弛緩した箇所が確認されたため、破損部分を慎重に解体し、必要が認められた部分のみを追加して積み替える予定である。（多井 忠嗣）



修理前の檜皮屋根の劣化状況



旧檜皮屋根解体の状況

県指定文化財 志磨神社本殿の保存修理

建築年代：延宝6年(1678)
所在地：和歌山市中之島
事業の種類：屋根葺替
事業期間：2023.2～2023.6

志磨神社本殿は隅木入り春日造りで、随所に立体的な彫刻が施された、近世初頭の神社建築の特徴を有する良質な建物である。和歌山市内の中心部にありながら戦禍にあうこともなく、霧除けが設けられていることもあり、近世に遡る彩色も良好な状態で保存されている。

令和3年に和歌山県指定文化財に指定され、令和4年度からの2か年度事業で、劣化が目立ってきていた箱棟廻りや銅板葺屋根の葺き替え工事を実施した。

銅板屋根を解体したところ、小屋組にも当初材が良く残されていることが確認出来たとともに、正面の千鳥破風を、中古に手前側に移設するなどの改変が行われていることも判明した。

銅板屋根の下地に記された墨書から、旧屋根は橋本市の檜皮葺職人により昭和42年に葺き替えられた事が判り、小屋内に檜皮材などの断片が多数残る状況からも、同時期までは檜皮葺きであったことが推定された。

また軒積部の銅板の取り替え作業に伴い、工事の支障となる霧除けの板材を一旦分解したところ、通常見ることが出来ない背面の彩色などが確認されたため、記録写真の撮影もあわせて行った。



本殿正面



背面の壁板、脇障子に確認された彩色

今回の修理事業に伴い、本殿本体の火災報知設備を現行の消防関係法規に適合した仕様に更新する工事も実施し、歴史的建物を保全する体制を整えた。

木部を修理し、新しい銅板で包み直した鬼板や千木、勝男木を棟に据えつけ、霧除けの板壁を復旧、仮設を解体撤去し、すべての工事が令和5年6月に完成した。

(多井 忠嗣)



銅板葺きの施工状況



竣工（左に隣接するのは、登録有形文化財である幣殿）

県指定文化財 東田中神社境内社 旧竹房神社本殿の保存修理

建築年代：室町時代後期～桃山時代
所在地：紀の川市打田
事業の種類：屋根葺替・塗装修理
事業期間：2022.09～2023.09

建物の概要

旧竹房神社本殿は、一間社隅木入春日造の社殿で室町時代後期から桃山時代に建立された（写真1）。

この付近は中世の田中荘で、荘中に地主神があり、田中の八社と呼ばれてきたが、昭和大戦後、東西2カ所に集めて、それぞれ東田中神社及び西田中神社と名付けられた。今回、修理を行った旧竹房神社本殿は元々、約3キロメートル南の紀ノ川に望む台地上の竹房にあった。竹房、黒土、赤尾の産土神であった建物が移築されたものである。

保存修理の内容

事業は令和4年度から2カ年で、屋根葺替・塗装修理を中心とした保存修理工事を行った。昨年度は仮設工事で素屋根を組み立て、屋根工事にて旧檜皮葺きの解体と屋根野地の補修を行い、檜皮葺きの材料調達と拵えを進めた。前回（平成元年）に屋根葺替していることもあり、野地は想定の範囲内の破損状況であった。



写真2 塗装塗替の作業状況



写真1 旧竹房神社本殿の竣工状況

杉材が用いられた呼び込み板においても腐朽が殆ど確認されなかった。箱棟については、勝男木上面のボルト留め部分から雨水が入り込み、腐朽が進んでいた。そのため、勝男木の取替を行い、留め穴には銅板を被せ、水の浸入を防ぐ処置を行った。

今年度は主に在来の仕様で檜皮屋根を葺き直し、縁廻りや正面千鳥破風の塗装工事、飾金具の補修等を実施した。塗装の状態は縁廻りを中心に雨水による剥落や樹脂の白化が顕著であった。合成樹脂が木部に含浸すると、今後膠のみで施工することが困難となることなどが予想される。今回の塗装範囲については、以前の修理で部材が取り替えられているため、施工者と協議の上、塗膜の強化を優先し、膠に微量の合成樹脂を混入する方針とした。飾金物下に残存していた色を参考に手板を作成して色味を決定し、施工を行った（写真2）。塗装工事の後、補修した飾金具の取り付けを行い、全ての事業を完了した。

保管部材について

現在、身舎正面の欄間は、横板を嵌められているが、最初の彫刻欄間については事業中に別途保管されていることが判明した（写真3）。他に脇障子彫刻、修理棟札、ササラ桁等が残されている。

（大給 友樹）



写真3 別途保管されている身舎正面に取り付く彫刻欄間

県指定文化財 西田中神社羊宮神社本殿・八幡神社本殿の保存修理

建築年代：羊宮神社本殿：室町時代末期
八幡神社本殿：寛永12年(1635)
所在地：紀の川市中井阪
事業の種類：屋根葺替、塗装修理、部分修理
事業期間：2023.09～2024.09

建物の概要

西田中神社は和歌山県の北部を流れる紀ノ川沿いの、紀の川市の中井阪地区に所在する。羊宮神社と八幡神社は、それぞれ独立した神社であり、現在の社地は本来、羊宮神社の社地に当たる。昭和21年、それまでの羊宮神社の境内に尾崎の地から八幡神社が移築され、二社を並べて祀った。このときに社名が「西田中神社」と改められた。昭和48年に羊之宮と八幡神社の両本殿は和歌山県指定文化財に指定された。

羊宮神社は、天正年間の兵火により記録や社殿を焼失したと言われ、由来の詳細については詳らかでない。社伝に陸奥国牡鹿郡雫羊崎神社（宮城県石巻市湊の牧山に所在）より勧請したとある。また、天保10年(1839)に成立した『紀伊續風土記』の那賀郡田中荘中井坂村の羊宮の項によれば、「尾張ノ國山田ノ郡(名古屋市北区辻町)に羊ノ神社あり、或は此と一神ならんか」とある。本殿は隅木入りの春日造檜皮葺の建物である。平成4年の解体修理において、檜皮葺の小屋組の下に残された痕跡から屋根は当初は長板葺であったと考えられている。

八幡神社は、二間社流造檜皮葺の建物で、高欄の擬宝珠銘から「寛永十二年」に建てられたことが明らかである。内陣を四座の形式とすることに特色があり、



屋根工事完了



修理前全景（左：羊宮神社、右：八幡神社）

外陣内部は間仕切りがなく二間通しの一室とする。春日造社殿が多い当地方にあつては比較的珍しい。

保存修理の概要

平成4年度から6年度にかけて羊宮神社本殿・八幡神社本殿ともに解体修理工事が実施された。両殿とも銅板葺屋根は檜皮葺に復原し、ほとんど剥落していた外部彩色の復原整備を行っている。

屋根の檜皮葺は、前回の解体修理から30年が経過し、平葺全面で劣化が進んでおり、箱棟廻り木部の腐朽も認められた。また、柱の金欄巻・向拝・長押・組物などの彩色や軸部・縁廻り・壁面の丹塗・墨塗・胡粉塗等の塗装に鱗状の剥離や剥落が生じていた。そのため、令和5年度から6年度の2カ年で屋根葺替・塗装修理・部分修理を実施することとした。

5年度は、仮設工事として素屋根・軒足場の建設を行い、檜皮葺き屋根の葺き替え、箱棟の補修、千木・堅魚木の取替、銅板巻きの補修を行って屋根の修理工事を終えた。塗装工事は、屋根工事完了後に彩色の剥落止めまでを終えた。また、自動火災報知設備の修理も行った。6年度は、彩色の補筆、単色の塗装の塗り替えを行う予定である。（寺本 就一）



彩色の剥落止め作業

和歌公園観海閣新築工事

建築年代：新築
所在地：和歌山市和歌浦中
事業の種類：設計意図伝達業務
事業期間：2023.08～2025.03

令和3年度より実施した観海閣の基本設計、実施設計を受けて、和歌山県の公共工事として観海閣が新築されることに伴い、主に伝統工法による木部の施工や、構造計画に関する設計意図を伝達する業務を受託した。

現地での施工は11月より工事用経路の調整に着手し、止水工事、埋戻し砕石の撤去や周辺敷石の高さ調整などを実施し、高さの設定に関する指示や、再用する旧石材の使用箇所の特定、補足石材の仕上の仕様等に関する設計内容を施工へ反映させている。

上記とは別に、木工事担当者の作業場において、作成された原寸図の確認や仕口等の詳細についての指示、質問事項への対応などを行った。また使用する木材の強度、含水率の試験に立ち会い、木材の調達が概ね完了した。今回使用する木材は、化粧材が樺材、野物材が檜材で、和歌山県による公共事業であるため、すべて和歌山県産材を使用する。樺材は紀美野町の野上谷などで伐採され、十分に自然乾燥させたものを確保することが出来た。木材は林業試験所の協力を得て、強度や含水率を決定し、規準をクリアしたもののみを使用する。原寸図作成の進捗に伴い木材の製材を進め、順次大工による墨付け、加工を実施している。木部は作業場で仮組みまでを行う予定である。



木部原寸図の作成状況

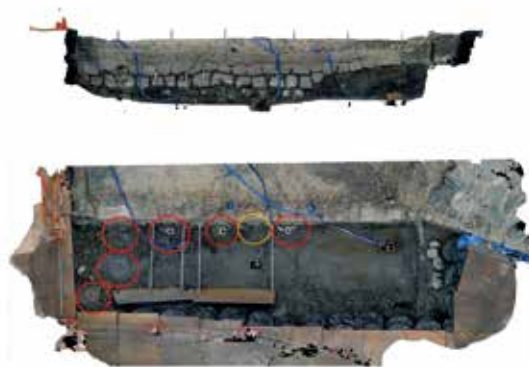


木材の検査状況

現地での建物本体の施工に先立ち、基準となる地盤高さの設定、各柱位置を特定した。今回は古写真で確認できる幕末期の再建建物を設計の基準としているため、基準高さは大正期から積替されていないと推定出来る部分の石積の頂部から設定した。これに合わせ、近年かさ上げされていた建物北側の石積や石敷の調整を行った。また柱位置は同様に、古写真で確認できる石積と建物の位置関係に加え、創建当初、背面側に位置する多宝塔と軸線を揃えて設計されたものと想定し、設定した。

その後基礎工事に伴い、海底に堆積した土砂を鋤取ったところ、旧礎石が検出された。砂岩切石が用いられ、石積際の柱列分は石積の石から造り出されているなどの特徴から創建当初の仕事と推定できる。

これらの旧礎石位置は、今回の新築に伴い設定した柱位置とも合致しており、幕末の再建時にも江戸初期の規模を踏襲し、礎石が再用されたものと推定出来る。名勝を構成する歴史的資料として現地保存することを前提に、計画の一部見直しを進めている。(多井 忠嗣)



海底から検出された旧礎石 (○)
和歌山県教育委員会提供

重要文化財 丹生官省符神社本殿防災設備等事業

建築年代：天文9年(1540)
所在地：九度山町慈尊院
事業の種類：防災設備改修
事業期間：2023.07～2024.10

丹生官省符神社は、本殿3棟が重要文化財に指定されている。境内地は史跡に指定され、世界文化遺産にも登録されている。

令和2年度に実施した本殿3棟の檜皮屋根の葺き替えと塗装の部分塗り替え事業に引き続き、令和5年度からの2か年度事業として、既存防災設備の改修と、警報設備の新設を行う事業を実施している。

令和5年度においては、掘削を伴う配管や機器類の基礎工事に先立ち、史跡地内として適切な工事を実施するため、和歌山県教育委員会の立ち会いのもとで当該部分の試掘調査を行い、地下遺構に影響が出ないことを確認した。

試掘に引き続き、既存避雷針の解体、撤去、コンクリート基礎の打設、新調した避雷針の組立を実施し、完了した。避雷針は第二殿の背面に位置するが、既存のパンザマスト製は直径が最大で45センチ程度あり、塗装の退色もあって神社の景観に大きな違和感を生じさせていた。このため今回は鋼管を用いることで直径18センチ程度とし、塗装も変色しにくい暗色とした。

この他、放水銃や収納ケース等の新設機器類の手配を進め、納品を確認した。(多井 忠嗣)



避雷針の組立状況

史跡 丹生都比売神社禊橋の保存修理

建築年代：不明
所在地：かつらぎ町上天野
事業の種類：解体修理
事業期間：2023.06～2024.03

丹生都比売神社は、本殿4棟のほか、楼門が重要文化財指定されている。また、境内地全体が史跡に指定されており、世界文化遺産にも登録されている。

今回は、破損が目立ってきた境内の木造橋である禊橋を、史跡の構成物として指定建造物に準じた形での解体修理を実施した。

禊橋は、神橋と楼門の間に位置する主要な参拝路となっており、修理に先立ち西脇に仮設橋を設置し、経路を確保した上で施工を進めた。

解体工事を実施したところ、木部全体に腐朽が進んでいることが確認されたため、必要な部材は旧状に倣って新調した。また擬宝珠などの飾り金具は一旦取り外し、補修を行った上で再用し、欠失していた唄金物一点を、在来の仕様に倣って補足新調した。

木部材の新調には良質な檜材を確保することが出来、優美に反り上がる曲面や繰形が施された持ち送りなどが復された。塗装には日常的に参拝者が利用することを考慮してペイント塗料を用いたが、神社と協議の上隣接する各建物の色調に配慮した伝統色(紅柄色)を用いたことで、境内の景観に統一性を保つことが出来た。(多井 忠嗣)



禊橋の竣工状況(神橋を望む)

【資料紹介】日高郡北部の製塩土器・土錘について

1. はじめに

和歌山県日高郡は、和歌山県のほぼ中央部に位置し、現在は美浜町、日高町、由良町、印南町、みなべ

町、日高川町の6町により構成される。明治12(1879)年に行政区画として発足した郡域を基本としており、当時は、上記6町に御坊市および田辺市の一部を加えた区域が日高郡とされていた。由良町は同年まで海部郡に所属している。

日高平野は、護摩壇山に源を發し、山間部を大きく蛇行する日高川を中心に、県内第2位の面積の日高平



図1 日高郡北部の製塩土器・土錘等が出土した遺跡

野を有し、山間部は林業、河口部は果樹や花卉栽培を中心とした農業が盛んである。また、海浜部の多くはリアス式海岸であり、古くから港として栄えてきた。そのため、日高川河口部を中心として旧石器時代の遺跡・遺物が確認されており、県内では古くから人々の活発な活動の痕跡が確認されている地域と言える。これまで数多くの遺跡が発掘調査されているが、日高郡北部はこれまで発掘調査件数そのものが少なく、報告書が刊行されていない遺跡も多い。そのため、所在する遺跡の詳細が不明なものが多い一方で、これらの地域では郷土史家による長年の資料収集などが根気強く行われてきた。しかし、収集された資料は未発表であることが多く、筆者は昨年度の当センター年報において由良町在住の郷土史家山口斌氏の収集資料を紹介したものの（以下、「山口氏資料」とする）、これらの資料に対する調査・検討は十分とは言えない状況が続いている。同様の資料として御坊市教育委員会が保管している巽三郎氏の収集資料等がある。

一方で、和歌山県内では近年、西庄遺跡（和歌山市）等これまで「海人集落」とされてきた遺跡の再検討・再評価が進んでいる。特に骨角製・鉄製漁労具、製塩土器の再検討が進む中、日高郡北部沿岸に所在する遺跡において収集された考古資料には多数の製塩土器・土錘が含まれている。筆者はこれらの収集資料や過去に発掘調査が行われたが未報告になっている資料を整理・検討し、日高郡北部における「海人」の実態について迫りたいと考える。

本稿ではその基礎作業として、現在漁労具や製塩土器が出土、収集された日高郡北部の遺跡を紹介することにより、対象となる遺跡・遺物の明確化を目指したい。

2. 遺跡紹介（図1）

【由良町】

・**黒島遺跡**…由良町衣奈区の黒島に所在する縄文時代

から平安時代の散布地として知られる遺跡である。これまで石匙、縄文土器、土錘、須恵器、製塩土器が採集されており、砲弾型の製塩土器が出土している。

・**衣奈遺跡**…由良町衣奈区に所在する縄文時代から平安時代の散布地として知られる遺跡である。これまで縄文土器、石棒、石斧、弥生土器、須恵器、土師器、黒色土器が採集されており、山口氏資料にも衣奈遺跡出土の製塩土器の写真が存在する。

・**十九島製塩遺跡**…由良町小引区の十九島に所在する平安時代の散布地として知られる遺跡である。昭和47（1972）年の表採資料で砲弾型の製塩土器を多数確認している。

・**大引遺跡**…由良町大引区に所在する弥生～平安時代の散布地として知られる遺跡である。弥生土器、木槽、手づくね土器、製塩土器、土錘が出土している他、昭和47（1972）年には耕作中の水田から木槽と共に土器、石器が出土している。昭和59（1984）年には県道衣奈・大引・阿戸線道路改良工事に先立って発掘調査が実施されており、遺構は確認されなかったものの、3万点を超える遺物が出土している。遺物の中には製塩土器（図2）、土錘が多数含まれているほか、ファイゴ羽口や

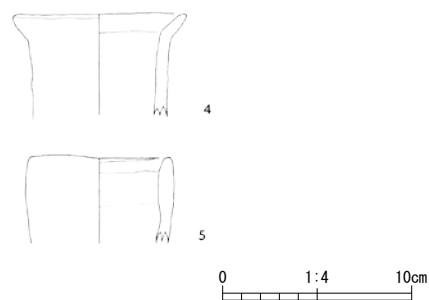


図2 大引遺跡出土製塩土器



写真1 大引遺跡出土銭貨

金属滓、また皇朝十二銭である隆平永宝1点、長年大宝3点が出土していることが注目される（写真1）。

・**阿戸遺跡**…由良町阿戸区に所在する弥生から古墳時代の散布地として知られる遺跡である。山口氏資料には「尾崎遺跡」と記載されている。弥生土器、土師器、製塩土器、サヌカイト片が出土している。個人住宅建設に伴い昭和48（1973）年に調査が実施されているほかにも発掘調査が実施されている。

・**その他**…吹井地三宅谷遺跡においても製塩土器、土錘が出土している他詳細は不明なものの、由良町教育委員会が所有している町内出土資料の中に製塩土器・土錘が複数点存在する。

【日高町】

・**柏遺跡**…日高町柏区に所在する古墳時代の散布地として知られる遺跡である。『日高町誌』下巻には昭和27（1952）年ごろ水田掘り下げ工事中に土師器が多量に出土したが現存しないと記載されている。土師器（高坏・坏）、滑石製品が出土したほか、県埋蔵文化財包蔵地調査カードには製塩遺跡、遺物包含層は残存するものと推定されると記録されている。

・**小浦Ⅰ遺跡、小浦Ⅱ遺跡**…日高町小浦区に所在する遺跡で、小浦Ⅰ遺跡は奈良時代から鎌倉時代の散布地として、小浦Ⅱ遺跡は弥生時代の散布地として知られる遺跡である。昭和58（1983）年度と昭和60（1985）年度に県道拡幅に伴う発掘調査が行われており、弥生時代後期から古墳時代初頭、鎌倉時代の遺物が出土している。令和3年度にはほ場整備に伴い発掘調査が実施されており、両遺跡とも製塩土器の脚台式Ⅲ・Ⅳ、土錘が出土している。

・**津久野遺跡**…日高町津久野区に所在する古墳時代から中世にかけての散布地として知られる遺跡である。『日高町誌』下巻に記述があり、中世墳墓のほか土師器、須恵器、製塩土器が出土している。巽三郎氏収集資料には多数の土錘も確認できる。

・**比井遺跡**…日高町比井区に所在する古墳時代の散布

地として知られる遺跡である。旧比井小学校の校地整理拡張工事中に発見されたもので、土師器、製塩土器が多量に出土している。

・**阿尾遺跡**…日高町阿尾区に所在する古墳時代の散布地として知られる遺跡である。土師器（高坏、坏）、石錘、製塩土器、土錘が出土しており、昭和30（1955）年に阿尾小学校児童が発見したとされる。山口氏資料に



写真2 阿尾遺跡出土製塩土器

は昭和50（1975）年4月に撮影された「阿尾小学校建築現場より出土物」と題して石錘、製塩土器、土師器の写真が掲載されている（写真2）。

・**蟻島遺跡（仮）**…現在、埋蔵文化財包蔵地に指定されていないが、山口氏資料には「S.47.1次調査」「S.50.6.2次調査」と題して調査地や出土遺物（弥生土器、土師器、須恵器、製塩土器）の写真が掲載されている。製塩土器は脚台式と器壁の厚い丸底式の2種が確認でき、山口氏は十九島遺跡（由良町）で出土した製塩土器との類似を指摘している（写真3～5）。

・**方杭遺跡（仮）**…現在、埋蔵文化財包蔵地に指定されていないが、山口氏資料に日高町方杭区Ⅰ氏宅内倉庫建築時に出土した製塩土器の実測図から、遺跡があることが推定されるものとして記載する。『日高町誌』下巻には古墳時代の遺跡として「二 柏遺跡 Ⅰ氏宅地内で五〇～一〇〇センチくらいのところより多数の土師器（高坏、坏、壺、土錘）が出土～（以下略）」と記載されており、山口氏資料の記載に類似している

が、柏遺跡は町誌において2項目記述されていることから、この遺跡を誤認して町誌に「柏遺跡」として記載した可能性がある。山口氏資料には製塩土器19点の実測図のみ残されており、形状から脚台式Ⅰ～Ⅳと思われる。

・その他…令和3年度宅地造成に伴い行われた荊木遺跡（日高町）の発掘調査において製塩土器が少量出土している。

3. まとめ

今回は日高郡北部の由良町及び日高町所在の製塩土器及び土錘出土の遺跡をまとめた。採集資料は山口氏の資料を中心に記述したが、現在埋蔵文化財包蔵地に指定されていない地域もあること、発掘調査報告書が刊行されていない遺跡もあることから、今後資料の整理・検討の必要性を改めて強く感じる。巽三郎氏の収集資料についても同様に整理・検討が必要である。今後、整理・検討の進捗についてはセンター刊行物の中で報告していきたい。

（濱崎 範子）

※掲載した写真は写真1を除き山口氏資料によるものである。

【参考文献】

『日高町誌』下巻 1977 日高町

『大引遺跡発掘調査概報』1985 社団法人和歌山県文化財研究会

『由良町誌 史（資）料』1985 由良町誌編集委員会

『小浦Ⅰ遺跡・小浦Ⅱ遺跡—中山間総合整備事業小浦地区ほ場整備事業に伴う発掘調査報告書』2023 公益財団法人和歌山県文化財センター

濱崎範子「山口斌氏収集の日高郡北部における考古資料について（1）」『和歌山県文化財センター年報 2022』2023 公益財団法人和歌山県文化財センター



写真3 蟻島全景



写真4 蟻島から出土したと見られる製塩土器1

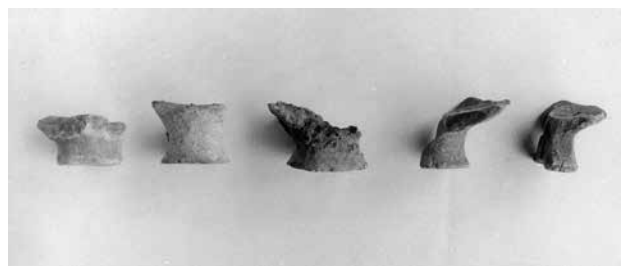


写真5 蟻島から出土したと見られる製塩土器2

令和5年度（2023）の普及活動

○センター全体に関する普及事業

・「文化財センター情報誌 風車」発刊

今年度は、101号、102号、103号、104号の年4回発刊した。101号として、「特集：吉原遺跡、松原経塚の発掘調査」、102号として、「特集：金剛峯寺奥院経蔵の保存修理」、103号として、「特集：和田岩坪遺跡第2次発掘調査」、104号として、「白岩丹生神社本殿の保存修理工事」を刊行した。

・「和歌山県文化財センター研究紀要」発刊

和歌山県内における文化財に関する調査研究活動等の成果を広く公表する場を提供することで、県民に県内の文化財の学術的評価を周知し、文化財の保存活用に寄与するとともに関係職員等の学術交流、資質向上を図ることを目的として、令和4年度より研究紀要を発刊している。

第2号となる今年度は、論文2編、研究ノート4編、資料紹介1編を掲載した。



「和歌山県文化財センター研究紀要 第2号」

・和歌山県内文化財調査報告会「地宝のひびき」

令和5年11月12日に紀の川市歴史民俗資料館において、前年度の埋蔵文化財調査の成果などを知っていただくため、和歌山県内文化財調査報告会「地宝の

ひびき」と題して開催した。参加者数は34名である。

報告内容は、「美浜町吉原遺跡の発掘調査—県下初！石積みをもつ方形周溝墓群—」川崎雅史（当文化財センター）、「和田岩坪遺跡の発掘調査—弥生時代後期～古墳時代前期の自然流路の調査—」仲原知之（当文化財センター）、「太田城水攻め堤の土取り跡—太田・黒田遺跡第101次調査を中心として—」藤藪勝則氏（（公財）和歌山市文化スポーツ振興財団）、「中城跡、城の段遺跡の発掘調査について」白川千畝氏（紀の川市教育委員会）、「名手役所の復旧整備と旧竹房神社本殿の保存修理—紀の川市の建造物事業を通してわかったこと—」大給友樹（当文化財センター）の5本である。

上記に、誌上報告2本の報告を加えて報告会資料集を刊行した。なお、作成した報告会資料集は、関係機関に送付した。



地宝のひびき資料集



地宝のひびき 開催風景

・和歌山県内文化財調査成果展「紀州のあゆみ」

近年に県内で実施された文化財関係の調査成果を県民などに公開することを目的に、紀の川市歴史民俗資料館で展示を行った。



紀州のあゆみ 展示解説リーフレット（一部）

展示を行った遺跡は太田・黒田遺跡、和田岩坪遺跡（和歌山市）、中城跡、城の段遺跡（紀の川市）、西国分Ⅱ遺跡（岩出市）、吉原遺跡（美浜町）、パネル展示を行った遺跡は、勝山城跡（白浜町）である。また、展示会場である紀の川市を代表する建造物事業の成果発表として、名手役所主屋及び離れ・蔵、東田中神社境内社旧竹房神社本殿（紀の川市）の事業内容をパネルで併せて展示した。

展示期間は令和5年11月8日～12月17日、来館者は431名であった。

○埋蔵文化財に関する普及事業

・報告会

「文化財担当者専門研修受講成果フィードバック報告会」

・発掘調査説明会・現地公開

「東郷遺跡発掘調査」

「岩橋千塚古墳群寺内地区発掘調査」

「八反田遺跡発掘調査」

・「令和5年度第12回風土記まつり」

・「関西考古学の日2023」関連事業 スタンプラリー

文化財担当者専門研修受講成果フィードバック報告会

令和5年11月9日（木）に、県教育委員会と協働して、県内文化財担当職員等を対象に文化財担当者専

門研修（奈良文化財研究所主催）の受講成果をフィードバックすることを目的とした報告会を開催した。



フィードバック報告会 開催の様子

令和4年7月25日～29日に受講した「文化財デジタルアーカイブ課程」について、濱崎範子（当文化財センター）が報告し、全国遺跡報告総覧への発掘調査報告書のデジタルデータの登録についてのワークショップを実施した。

現地説明会・現地公開

遺跡の発掘調査を広く一般の方々に周知するため、発掘調査の現地公開を開催した。

各現場の発掘調査担当者による遺跡の解説を行い、地元の方を中心に参加者を得ることができた。現地公開を開催した遺跡と開催日及び参加者は、以下の通りである。

【現地公開・現地説明会】

- ・東郷遺跡 令和5年4月10日 参加者42名
- ・岩橋千塚古墳群寺内地区 令和5年11月6日 参加者6名
- ・八反田遺跡 令和5年11月18日 参加者55名



八反田遺跡 現地説明会の様子

令和5年度第12回風土記まつり

「風土記まつり」は、ものづくり体験や風土記の丘競技会などのプログラムを通じ、県立紀伊風土記の丘へ来館する機会が少ない県民の来園機会の創出、さらに特別史跡岩橋千塚古墳群をはじめとする文化財や文化体験に親しむ契機の創出を目的として、平成22年度より開催されている。



風土記まつり 開催の様子

今年度は令和5年10月29日（日）に開催され、当文化財センターは「拓本体験」を計画し、まつりの運営に参加した。当日、体験参加者44名（子供32名、大人12名）であった。

○文化財建造物に関する普及事業

文化財建造物の保存修理現場では、所有者・地元の教育委員会が開催する現場見学会等に協力し、建物や工事の内容について解説を行った。

また、現場では施工状況の説明を通して、文化財保全について関係者や近隣住民の理解が深まるように努めた。参加者には修理概要を伝えるリーフレットを作成および配布し、工事期間においては仮設正面や社務所等に実施状況を説明する資料を掲示した。

文化財に関わる研修事業に協力し、和歌山県内における工事の内容や建物の特徴について解説を行った。県内の地域文化に関する講座に講師を派遣するなど、文化財建造物保存修理事業に伴う調査成果に基づいた知見を広く県民に還元した。



西田中神社 修理現場見学会の様子

(公財)和歌山県文化財センター 令和5(2023)年度 概要

I 受託業務

埋蔵文化財発掘調査等受託業務	6件
埋蔵文化財出土遺物等整理受託業務	5件
埋蔵文化財支援等受託業務	12件
文化財保存活用計画支援受託業務	2件
文化財建造物保存修理技術指導業務等	18件

II 理事会・調査委員会・会議など

理事会・評議員会

理事会	05.06.07	アバローム紀の国
評議員会	05.06.28	アバローム紀の国
理事会	05.12.01	和歌山県自治会館
理事会	06.03.27	アバローム紀の国

埋蔵文化財関係会議

令和5年度第1回(第67回)全国埋蔵文化財法人連絡協議会 近畿ブロック主催者会議	05.06.09	公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所
第44回全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会	05.06.15～16	和歌山県和歌山市
令和5年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会 近畿地区デジタル技術等活用推進委員会	05.09.06	公益財団法人元興寺文化財研究所
第37回令和5年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会 近畿ブロック事務担当者会議	05.10.27	長岡京市バンビオ1番館
令和5年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会	05.11.01～02	茨城県水戸市
令和5年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会 近畿ブロック会議研修会	06.01.19	大阪府文化財調査事務所
令和5年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会 デジタル技術等活用推進委員会研修会	06.01.29	オンライン開催
令和5年度第2回(第68回)全国埋蔵文化財法人連絡協議会 近畿ブロック主催者会議	06.02.02	長岡京市バンビオ1番館
令和5年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会 近畿ブロック会議	06.02.22	京都市考古資料館

文化財建造物関係会議

令和5年度重要文化財建造物保存修理事業等監督者会議	05.04.13	主催：文化庁
令和5年度文化財建造物保存事業幹部技術者研修会	05.04.14	主催：(公財)文化財建造物保存技術協会
令和5年度文化財防災のための詳細資料調査業務に関する担当者協議会	05.09.05	主催：(独)国立文化財機構文化財防災センター
令和5年度文化財建造物保存修理関係者等連絡協議会(第69回)	05.10.16	主催：文化庁
令和5年度文化財建造物保存事業主任技術者研修会	05.10.19-20	主催：(公財)文化財建造物保存技術協会

委員委嘱

川崎 雅史	御坊市文化財保護審議会委員	04.04.01-06.03.31	御坊市教育委員会	04.04.01	付依頼
川崎 雅史	みなべ町文化財保護審議会委員	04.04.01-06.03.31	みなべ町教育委員会	04.04.01	付依頼
濱崎 範子	由良町文化財保護審議会委員	05.04.01-07.03.31	由良町教育委員会	04.03.03	付依頼
多井 忠嗣	海南市文化財保護審議会委員	05.04.01-06.03.31	海南市教育委員会	03.05.14	付依頼
多井 忠嗣	国指定史跡金剛峯寺境内(奥院地区)大名墓総合調査研究会委員	05.04.01-06.03.31	高野町教育委員会	04.07.01	付依頼

III 講師派遣・執筆など

埋蔵文化財課関係

川崎 雅史	「考古学界ニュース・近畿地方」『季刊考古学』第162号	05.02.01	発行
川崎 雅史	「美浜町吉原遺跡の調査―葺石(貼石)をもつ方形周溝墓群―」 講師 第26回近畿弥生の会	05.07.02	於：兵庫県立考古博物館講堂
川崎 雅史	「八幡山城跡地形測量にかかる現地指導」	05.12.05	於：八幡山城跡(御坊市藤田町吉田地内)
川崎 雅史	「吉原遺跡方形周溝墓の調査成果」『古代文化』第75巻第3号	05.12.30	発行
川崎 雅史	「立野遺跡及び出土品の特徴等の説明」	06.01.30	於：多世代交流施設「イコラ」
川崎 雅史	「発掘された紀中・紀南の中世城館」和歌山城郭調査研究会総会記念講演	06.03.30	於：和歌山市立博物館

文化財建造物課関係

大給 友樹「重要文化財白岩丹生神社本殿保存修理工事見学会」解説	05.05.27,07.29	於：白岩丹生神社
大給 友樹「旧名手宿本陣現地説明会」講師	05.06.17	於：旧名手宿本陣
多井 忠嗣・大給 友樹「令和5年度文化財建造物保存事業技術者養成教育第7回」研修対応	05.10.05-6	於：善福院釈迦堂ほか
多井 忠嗣「固有技術研修会 中級技能者認定研修【彩色部門】」講師	05.11.09	於：金剛峯寺奥院経蔵ほか
下津 健太郎「令和5年度耐久大学専科」講師	05.11.11	於：濱口家住宅
下津 健太郎「広川町の文化財紹介（濱口家住宅）の情報発信」番組出演	05.12.01	於：和歌山放送
大給 友樹「令和5年度紀の川市文化財保護審議会管外視察」解説	06.01.22	於：白岩丹生神社
大給 友樹「重要文化財白岩丹生神社本殿 —天沼俊一と「T君」の追体験から考えたこと」『文建協通信 154号』	05.10	発行

IV 刊行図書・出版物等

年報・紀要

『公益財団法人和歌山県文化財センター年報 2022』	05.05.26	発行
『和歌山県文化財センター研究紀要 第2号』	06.03	発行

埋蔵文化財課関係

調査報告書

「東郷遺跡—江川小松原線通学路緊急対策事業に伴う発掘調査報告書—」	06.01.31	発行
「里野中山城跡、結城城跡、浦屋敷跡—すさみ串本道路建設事業に伴う発掘調査報告書—」	06.02.29	発行
「岩橋千塚古墳群寺内地区—和歌山平野農地防災事業新溝支線水路工事等に伴う発掘調査報告書—」	06.03.08	発行
「吉原遺跡、松原経塚—柏御坊線交通安全施設等整備事業に伴う発掘調査報告書—」	06.03.08	発行

報告会・シンポジウム資料等

『和歌山県内埋蔵文化財調査成果展 紀州のあゆみ』展示解説リーフレット	05.11.08	発行
『地宝のひびき—和歌山県内文化財調査報告会 2023—』報告資料集	05.11.12	発行

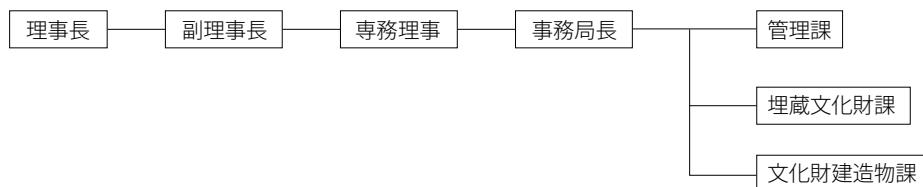
『風車』紀州の歴史と文化の風

季刊情報誌『かざぐるま』

風車 101 2023 夏号 特集「吉原遺跡、松原経塚の発掘調査」	05.06.30	発行
風車 102 2023 秋号 特集「金剛峯寺奥院経蔵の保存修理」	05.09.30	発行
風車 103 2023 冬号 特集「和田岩坪遺跡第2次発掘調査」	05.12.28	発行
風車 104 2024 春号 特集「白岩丹生神社本殿の保存修理工事」	06.03.31	発行

V 組織

組織図



役員（理事）

理事長	櫻井 敏雄	元近畿大学 教授
副理事長	宮崎 泉	和歌山県教育委員会 教育長
専務理事	井口 好晴	前和歌山県人事委員会 事務局長
理事	有坂 道子	京都橘大学教授（05.06.28～）
理事	逸木 盛俊	宗教法人粉河寺 代表役員
理事	小野 健吉	大阪観光大学観光学部 特任教授

理事	九鬼 家隆	和歌山県神社庁長、宗教法人熊野本宮大社代表役員 (05.06.28 ~)
理事	工楽 善通	大阪府立狭山池博物館 名誉館長
理事	中村 浩道	和歌山県立紀伊風土記の丘 館長
理事	中村 貞史	元大阪経済大学 非常勤講師 (~ 05.06.28)
理事	林 宏	元一般社団法人和歌山県文化財研究会 会長

役員 (監事)

監事	風神 正典	税理士法人・風神会計事務所 代表社員・税理士
監事	栗生 好人	和歌山県教育庁生涯学習局 局長

評議員

東 松生	和歌山県立博物館 副館長
井藤 徹	日本民家集落博物館 名誉館長
小野 俊成	宗教法人道成寺 代表役員
垣本 和男	和歌山県教育庁 文化遺産課長
佐々木公平	宗教法人広八幡宮 代表役員
佐藤 亜聖	滋賀県立大学教授 (05.06.28 ~)
千森 督子	和歌山信愛大学 教授
西山 耕司	和歌山県立紀伊風土記の丘 副館長
日向 進	京都工芸繊維大学 名誉教授
和田 晴吾	兵庫県立考古博物館 館長 (~ 05.06.28)

職員

事務局 長 平林 照浩 (管理課長事務取扱)

管理課

課長補佐	松尾 克人
主査	出口 由香子
副主査	井阪 さゆり

埋蔵文化財課

課長	高橋 智也
主任	仲原 知之
副主査	川崎 雅史
副主査	田之上 裕子
技師	濱崎 範子

文化財建造物課

課長	多井 忠嗣
主査	下津 健太郎
副主査	寺本 就一
副主査	大給 友樹
技師	野田 達志

表紙図案

表紙右上	吉原遺跡、松原経塚出土蔵骨器
表紙下	志磨神社 本殿 正面図

公益財団法人
和歌山県文化財センター年報
2023

2024年5月31日

【発行】

公益財団法人 和歌山県文化財センター

〒640-8301 和歌山市岩橋 1263 番地の1
TEL 073-472-3710
FAX 073-474-2270

<http://www.wabunse.or.jp/>
E-Mail: kanri-2@wabunse.or.jp

【印刷】

白光印刷株式会社

(公財) 和歌山県文化財センター
<http://www.wabunse.or.jp>